

水無月かぐや (22)

「おはよう
ございますっ!」

「水無月かぐや
本日も行って参ります!!」

街の皆様の
平和と安全を守ること
それが私達
警察官の務めです

責任あるこのお仕事に
就かせていただいで
私は今とても幸せです

ですが…
警察官に仕事があるということは
治安を脅かす方々が
沢山いらっしやることと同義…

日々のパトロールは
犯罪やそれに準ずる行為を
取り締まるための大切な
職務です

「うらっ!!
あなたたち!!」

カッ



「こんな時間まで
出歩いて…それに
そんなもので飲んで！」

どんなに屈強そうな男に対しても
警察官は毅然とした態度で
接しなければなりません

「今すぐおうちに
帰りなさい！
これは命令よ！」

それが私が憧れた…
私があるべき
警察官の姿なのです

「ハハハ何だコイツW
ちよるすぎたるW」
「そんなんじや犯罪者
取り締まれませんよ
婦警さんW」

「ちよつとあなたたち…
本気で冗談じゃすまないわよ…
こんなこと許されるわけ…」

迂闊でした…
最初は素直な素振りで従っていたのだ…
家はこつちだからとまんまと
人気のない所に誘導されて

市民の安全を守る者として…
このような方達を
野放しにはおけませんっ…
けど…こんなの私一人じゃ絶対…
振りほどけないっ…

「こんな状態でまだ命令回調？W
自分の立場分かってねえのか？」

「おいWさっさと脱がせろW
コイツクソ胸でっけえぞW」
「ちよつと!!それは流石に…!!」



「ハハハハWW
デカすぎたるWW
すっげえWWW」

「こんなんふら下げて
公務員は無理たるW」

「取り締まるところが
本人が誘っちゃってるの
ウケるなW」

「やああ……」

「はっ放しなさい…
今ならまだ…
許してあげますから…」

「はマシで言ってるの？」

「許してもうるのは
お前の方だろ?!W」

「うっ…ウソ…
な…何ですか!?
今のは?!
全身がビリビリして…」

「バハハWW
乳首でイったぞコイツW」

「何?お姉さん
セックスしたことねえの?W」

「じゃあ俺らが
叩き込んでやるよ」

「雑魚メスは
どんなに抗おうとしても
男には勝てないって
ことをなW」

「初めて向けられる…男の人からの
性的な興奮と暴力…」

「逃げなきゃいけないのに
それを許してくれない
太い腕に組み伏せられて…私は…」

「やああ……」

「うっ……」

スロ



男の人に無理矢理
こじ開けられていく
自分の女としての本能に
私は：

『ほらっ
言われた通りに
しろ』

『はい……♡』

『みつ…皆様先程は…
大変失礼いたしました…』

大変失礼いたしました……

皆様に説明など
出過ぎた真似をしてしまい……

本当に申し訳ありません…

『わつ私水無月かくやは……
本日付で……みつ皆様のお……』

『皆様の
公衆ハメ穴奴隷に
着任いたしますっ
…』

「皆様に不快な思いを
させてしまった分…
全力で…おつ
…オマ●コご奉仕
させて頂きますので…
ごっこ指導ご鞭撻の程…
ようよろしく
お願いいたし…ます…」

「フハハww
はいw良く出来ましたw」

「今後は仕事中でも俺らに呼び出されたらすぐ来いよ?」

「少しでも遅れたら
この動画全世界に
ばら撒くからなw」

「…わかり…ました」

タイムラズプ スロー ビデオ 写真 スクエア

その日から私は……
勤務中でも休日でも関係なく
この方達に呼び出されて……

問答無用でセックスさせられました…

来る日も来る日も
無理矢理男性器を

今まで知らなかった
体中の性感帯を探り当てられて…

一カ月もしないうちに私は：

「うぐうう…♡お願いします♡
これじゃイケない♡」

「ブハハWクソ無様だなW」

『おめえがちゃんと言わないのが
いけねえんだろ?』

「何処に何が欲しいか……
ちゃんと男に媚びる
言い方しろやw」

立入禁止

『かぐやのオマ●に♡♡
皆様の勃起チ●ポを
挿れて頂きたいんです♡♡』

『おケツに警棒いらないです♡
はやくうハメ穴♡
かぐやのメスの部分に
おちんち●ゴシゴシしてえ♡♡』

おち●ちんをお預けされると
堪えられない!!
どうしようもない
おチ●ポ中毒者に
なっていました♡♡

『ハハハWWいぞいぞWW
もつと腰振つて誘えW』

『開けてやったレアスも
似合ってるなWW
鈴を鳴らして挿れてほしい穴
主張するんだぞWW』

ブルン

おち●ぽい

カハ

最初はおんなに
勝手におちんち●を
挿れて来たのに...

今じゃ私に色々な
変態的な芸を仕込んで
上手く出来ないとおチ●ポすら
挿れてくれないなんて...
本当に酷い方達です♡

『これって過去「エロくなつたなW
やっぱり快楽知らなかった女のほうが
潰れるの早いんだなW』

『それならそろそろ
連れてつても
いいかもなW』

『つ...連れてくつて...』

『あゝお前は気にしなくて
いいからWW
ほらWご褒美チ●ポだぞW
礼も忘れんなよ?W』

勤務中でもこうして朝から
セックス三昧...♡

そしてこの日は夜になると...

ぽろぽろ

あーいぞいぞ

ズン

イニ

ズン

ズン

ズン

おち●ぽい

おち●ぽい

ズン

あーいぞいぞ

ズン

「ほらWさっさと歩けW
早くしねえと
皆起きてきちゃうぞ?W」

首輪を付けられて深夜の住宅街を
オチ●ポと繋がったまま
全裸でお散歩させられました♥

「うてええ…
おちんち●挿れながら
お散歩なんてえ…♥
こんなの警察官
失格れすう…♥」

「^^^^W
もうとっくにお前は警官…いや
女として堕ちるト」まで
堕ちてるだろWW」

「ほらWハメ潮マーキングしろW
近隣住民にちゃんと
アピールしろやW」

「ここにト変態マソメス婦警が
いますよ〜ってなW」

「おいつイクときの
鳴きまねも忘れんなよ?W
変態雌犬おまわりさんW♥」

今まで頑張ってきたものが
崩れ落ちていく感覚と
おま●こに残ったザーメン
とおちん●んの感触
それから
強い男性に命令される
従属感で…

自分でも
びっくりするぐらいの
お潮を吹きちゃいました♥
この時
知ってしまいました…
女として…私は今まで
とても不幸だったと
いうことを

あれから何カ月も
経ちましたが…
まだ職場には
私の「本性」は
バレていません

『おはよう
ございますっ♥』

今日も朝から…

『水無月かぐや…本日もお
いっぱいっ参ります♡』

あの方達に呼び出されて…
これからパトロールに行くフリして
いっぱい変態セックスして頂きます♡

街の皆様は平和と安全を守る
警察官の務めも大切ですが…

マゾメスとして…
オチ●ポしていただける
あの方達に飼って頂いて…
私は今とても幸せです♡

